企業における人間工学活動氷山の一角

○易 強（静岡県工業技術研究所）、吉見 邦子、水本 徹（株式会社島津製作所）、大野 友美（日本クロージャ株式会社）、三坂 昇司（公益財団法人流通経済研究所）、白石 葵（株式会社博報堂アイ・スタジオ）、善方 日出夫（富士通デザイン株式会社）

Lightning talks of ergonomics and human engineering activities in the enterprise

Tsuyoshi Yi YOTO (Industrial Research Institute of Shizuoka Prefecture), Kuniko YOSHIMI, Toru MIZUMOTO (Shimazu Corporation), Tomomi OHNO (Nippon Closures Co., Ltd), Shoji MISAKA (The Distribution Economics Institute of Japan), Aoi SHIRAISHI (Hakuhodo i-studio Inc.) and Hideo ZENPO (Fujitsu Design Limited)

1. はじめに

人間工学の分野に拘らず、企業の現場で発生した事案に関する事例報告、調査のまとめ、日頃に抱える疑問をまとめて問題提起し、解決策の呼びかけ、面白い社会現象の紹介、蓄積したデータの見方の検討、共同研究や製品開発に実践した人間工学活動の裏話（失敗事例も含む）など6件、1演題5分のランディングトークセッションです。それぞれの発表に対して、認定人間工学専門家が、質疑や総合討論の際に積極的に発言、討論に参加する予定です。

2. ランディングトーク発表概要

日本人間工学会から企業における人間工学活動を支援する方法の提案

静岡県工業技術研究所 易強

最近10年学会会員のうち企業に所属する割合が近年低下してきています（図1）。景気の影響や関連する学会の増加による細分化などが考えられますが、社会に役立つ学会として、企業にとって魅力的であることが重要です。

図1 企業所属学会員の割合

日本人間工学会の魅力を増やすための試みの1つとして、企業活動推進委員会から提案します。

具体的には、学会から企業から抱えている人間工学のサポートを必要としている案件を募集し、認定人間工学専門家の集団から支援を申し出る方とプロジェクトチームを組み、課題に取り組みます。参加者にとってWIN-WIN関係となる仕組みを構築ことにチャレンジします。

設計部門に伝わる！ユーザビリティ評価の定量化と可視化

（株式会社島津製作所 吉見邦子、水本徹）

技術志向の開発プロセスを長年熟成してきた設計部門では、前機種のXX倍といったような定量化された性能を重要視しています。それゆえユーザビリティ評価で発見した問題点を定性的に指摘しても、設計部門に響かず改善につながらない場合が多かったです。

そこで問題点を影響度や発生頻度などで定量化したり、アイトラッキングを用いて可視化したりするといった工夫を行いました。

その結果、設計部門が指摘事項を受けて改善するケースが増えてきています。

市販PETボトル飲料の開栓性評価～若者と高齢者の比較～

（日本クロージャ株式会社 大野友美）

当社は王冠の製造から始まり、現在は食品・調味料・トイレタリーなど幅広い分野に向けて樹脂キャップや金属キャップを提供しています。日々使いやすいキャップの開発に努めていますが、特にPETボトル飲料については高齢者にとって開けにくいとの声が多く、今後さらに高齢化が進むことが予想されている中で、開けやすいキャップの開発が重要テーマであると感じています。まずは現状把握として、3世代（20～30才、65～75才、75～85才）を対象に、市販PETボトル飲料の開栓

性評価を実施し、開栓時の筋負担度を筋電計にて測定しました。評価方法やデータの見方など、アドバイス頂けると幸いです。

リアル店舗における人間工学を活用した取り組みの可能性

(公益財団法人流通経済研究所 三坂昇司)

店舗を持たないインターネット通販の存在感は、年々大きくなってきています。リアル店舗では、“ならでは”の施策でお客様の支持を得ることが重要になっています。本報告では、当研究所が実施したリアル店舗における調査結果を元に、近年の販売施策の検討について紹介します。その上で、これまで蓄積されてきた人間工学の知見を活用して、直接的に小売業のリアル店舗の売上を高める取り組みの可能性について議論できれば幸いです。

UXをテーマに社内起業した1年半で学んだこと

(株式会社博報堂アイ・スタジオ 白石葵)

社内ベンチャーを立ち上げてみたらたくさんの壁にぶち当たり、砕けました。でもこの一連の体験により、社内承認の突破に必要なこと、MVPに入る前に検証しておくこと、開発体制の組み方、実証実験で検証すべきことなど、サービスデザインの過程で起こりがちなさまざまな失敗のポイントが見えてきました。

断片的ではありますが、新たにサービスを立ち上げようとしている方の参考になれば幸いです。

企業とアカデミックそれぞれの立場から見た人間工学に対するイメージや期待

(富士通デザイン株式会社 善方日出夫)

企業活動推進にあたり、委員会メンバーに5項目からなる簡単なアンケートを実施しました。

企業とアカデミックそれぞれの立場から見た人間工学に対するイメージや、それぞれの立場への期待について、定性的に比較を行いました。

企業からみた人間工学に対するイメージや期待はある程度まとまった内容が見られたが、アカデミックからみた場合は回答数も少なく着眼点も様々でした。キーワードレベルで整理し、当日の話題提供としたいです。

3. おわりに

本シンポジウムを主催する日本人間工学会企業

活動推進委員会¹⁾について紹介します。

(1) 委員会活動の目的

- 本委員会は、企業での人間工学活動をもっと可視化して、アクティブにしていくための委員会です。
- 目標として、日本人間工学会の活動に参加する企業のメンバーを倍増します。

(2) アクションプラン

- 企業での人間工学活動現状を把握します。各支部、委員会に参加している人からヒアリング、委員会のオブザーバーになっていただきます。
- 企業での人間工学活動のアクティブメンバーのネットワークを構築します。SNSや掲示板MLを活用して、相互訪問など連絡を密にします。抱えている案件、悩みを気軽に話し合える仕組みを模索します。
- 目標を絞り、産官学の連携による短期的なプロジェクトを立ち上げて、活動するモデルを構築します。

(3) 活動成果の顕在化

- 学会のホームページを通じて情報発信します。
- 全国大会や地方大会で発表やシンポジウムを開催します。
- ほかに委員会と連携を取ります。

現在、委員8名オブザーバー10名で活動しています。普段はメーリングリストで情報交換しています。興味がありましたら、参加してください。最初はオブザーバーからで構いません。

連絡先：易強 (yi3@nifty.com)

謝辞

本セッションは日本人間工学会企画委員会の支援を受け、共催しています。

参考文献

- 1) 日本人間工学会企業活動推進委員会：
<https://www.ergonomics.jp/organization/member/committee.html>.